

令和4年度学校自己評価システムシート (県立大宮武蔵野高等学校)

目指す学校像	1 高い目標を持ち、自らの夢を実現できる生徒を育成する学校 2 社会で活躍できる生徒を育て、地域が誇れる学校
--------	---

重点目標	1 生徒一人ひとりの学力の向上を目指した授業改善の取組 2 第一志望実現に向けた系統的な進路指導の確立 3 基本的生活習慣の確立とマナーアップ、生徒の主体的な活動の一層の充実 (R4 変更) 4 地域貢献・連携ができ、地域に信頼される生徒の育成 (R4 変更)
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (1 月 1 0 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・授業への集中度 95%など、生徒アンケート回答が向上した。 ・欠点保持者数 約 13%減 【課題】 ・授業への興味・関心、分かりやすさのさらなる向上のため、日ごろから成功体験を組み込んだ授業づくりを行うことで、生徒が主体的に参加できる授業としていく。	授業改善に向けた環境整備と主体的に学ぶ生徒の育成	①授業公開週間を年2回設定して、各教科で授業改善のための意見交換を行うとともに、生徒にとって日々の授業が「できた」と感じる機会となるよう努める。 ②生徒対象のアンケートを年2回実施し、その結果をもとに生徒の学習習慣を分析する。 ③授業を中心に補習や検定の充実に向けた支援をする。	①2回の授業公開週間における各教科での話し合いを踏まえ、生徒の学習への取組が向上したことが見とれたか。(観察) ②アンケート結果と分析をフィードバックできたか。(取組) ③補習授業や各種検定試験等の受検状況と成果。(数値の推移)	【概ね達成】 授業公開週間は6月と11月に設定した。生徒の学習への取組を向上させる方策のさらなる充実が必要 12月生徒アンケート(肯定的回答) ・授業への集中度 95%(R3 95%) ・授業への興味・関心 86%(R3 85%) ・授業のわかりやすさ 75%(R3 81%) ・補習等の充実度 78%(R3 81%) 各種検定試験を幅広く受検 ・英検2級合格2名(3学年) ・進2級合格3名(3学年・1学年)	B	12月生徒アンケート ・授業以外で全く勉強しない 35% ・考査の準備を全くしない科目がある生徒が増加 授業への興味・関心が高いことを活かし、授業のわかりやすさを向上させるような授業改善への取組を進めていく。 学年・関係教科が協働し、補習や検定の他、生徒の探究活動への支援に取り組む。
2	【現状】 ・コロナ禍において 95%が進路を決定した。ほぼ90%が進学。 【課題】 ・生徒アンケート(進路指導)進学補習等の指導の充実 86%→81% 進路指導の充実 90%→84%	キャリア教育、特に労働観を育てる進路意識の啓発とそれぞれの志望分野に応じたきめ細やかな進路指導	①総合的な探究の時間等を活用し、社会とのつながりを踏まえたキャリア意識の育成に取り組む。学年ごとの課題に応じたガイダンス、講演会などの行事を充実させる。 ②上級学校・企業の募集動向など情報収集を丁寧に行い、正確な情報発信を行う。 ③生徒の志望動機を明確にする契機となる指導を行うとともに就職支援アドバイザーと連携した就職指導を行う。	①進路希望調査でアルバイトあるいは未定者が減少したか。また、卒業時における進路未定者が減少したか。(数値の推移) ②生徒が志望する進路を実現したか。(取組・観察) ③模擬面接等の進路活動に生徒自らが積極的に活動したか。(観察)	【概ね達成】 進路ガイダンスや講演会を実施し、職業意識の育成を図った。 ・進路未定者 約 10%(前年度約 9%) 12月生徒アンケート(肯定的回答) ・進路指導の充実 84% 進路決定に参考となる書籍の購入、呼び掛け就職希望者 17名 9月末未定者も継続して活動し、内定を獲得した。	B	12月生徒アンケート ・「夢や希望があり努力している」(否定的回答) 28%(R3 23%) 進路実現のため、明確なキャリア意識に基づいた指導を洗練させていく。 学校生活の充実が進路意識に及ぼす影響を鑑み、生徒理解に基づいた進路相談等の充実を図る。総合的な探究の時間の見直しも検討する。
3	【現状】 定期的な整容指導、遅刻防止強化週間の設定等、学校全体で取組を行い、成果が上がっている。 【課題】 ・マナーアップや本校生としての自覚を持たせる継続的な指導が必要。	基本的生活習慣のさらなる確立に向けた働きかけと生徒の主体的な行動に向けた啓発指導	①「気が付いたらその場で指導する」日常的な声掛けの徹底により整容、登下校時のマナーアップを図る。 ②遅刻指導を定期的・継続的に実施する。 ③些細な事柄から細やかに、教職員全員で生徒の情報共有し、学校全体としての指導を進め、「武蔵野高校の看板を背負っている」という誇りを育てる。	①指導された生徒の態度が変容したか(観察) ②遅刻者数の前年度比。(数値の推移) ③生徒アンケートにおける生徒の意識に係る項目の回答が向上したか。(取組・数値の推移)	【概ね達成】 校内でシャツ襟出、制服を着崩す場面は減少 生徒会による服装強化デー実施 遅刻者数は減少傾向が続いているが常習者は減少せず。 (遅刻率 R3 2.07%→R4 2.05%) 校外マナーに対する指摘件数は前年度並み。 学校独自採用カウンセラー導入(9月～) 12月生徒アンケート(肯定的回答) ・学校外でのマナー意識 81%(R3 80%)	B	12月生徒アンケート ・校則を守り、安心安全な学校生活を送っている(肯定的回答) 92%(R3 93%) ・学校外でのマナー意識(肯定的回答) 81%(R3 80%) 今後も安心安全な学校づくりを継続することに加え、学校生活への意欲を喚起する教育活動の工夫を行っていく。
	【現状】 ・学校行事では感染対策を徹底し、分掌・学年が協働し工夫しながら実施。 ・文化祭やスポーツ大会等を通じた分校との交流が深まっている。 【課題】 ・部活動推進委員会と校内分掌との連携を強め、部活動の継続に重点を置いた教育計画を行う。	生徒の自主的活動のさらなる充実に向けた取組	①体験的な活動を通して、生徒の集団への所属感や連帯感、自己有用感を高める。 ②部活動活性化を学校の軸として、部活動推進委員会・特別活動指導部・学年が協力し、部活動の継続を全体で啓発する。 ③学校行事を通して、教職員・生徒同士の交流機会を増やすとともに、分校との連携を深め交流行事の充実を図る。	①学校行事の生徒アンケートの満足度4の割合(数値の推移) ②部活動加入率の状況。部活動体験会実施状況。(数値の推移・取組) ③交流事業における生徒会同士の連携による成果が見られたか。(観察)	【ほぼ達成】 文化祭は保護者等公開にて実施 文化祭生徒アンケート「楽しかった」9割超 12月生徒アンケート(肯定的回答) ・学校行事の充実度 69%(R3 68%) 部活動加入率(年度当初) 67.6%(R3 66.7%) 部活動体験会を8月と11月に実施した。 交流事業アンケート「楽しかった」ほぼ全員	A	コロナの感染状況に応じて適切な対策を行いながら通常開催に近づけるべく、創意工夫を行う。 入学時の部活動加入率は徐々に向上している。今後は継続率の向上を目標に働きかけを行っていく。 分校との交流は昨年引き続き活発に行われた。共同開催できるものは引き続き連携しながら行いたい。
4	【現状】 ・各分掌、学年、部活動と協働しHPを通して、情報発信を積極的に行った結果、閲覧数が大幅に増えた。 【課題】 ・学外との直接的な交流にかなり制限がある。	情報発信のさらなる充実と地域貢献を通じた地域に信頼される学校づくりの推進	①多くの教職員がHPを積極的に更新し、情報発信の活性化を図る。 ②より多くの中学生・保護者にアピールするために生徒募集活動を組織的に改善する。 ③地域行事の参加について工夫を図るとともに、学校評議員会や地域懇談会等を活用して意見交流を行う。	①HPの掲載・更新閲覧状況の前年度比。(数値の推移) ②学校説明会等や実施状況が充実したか。(取組) ③地域行事や交流事業に可能な方法を工夫して参加できたか。(観察)	【概ね達成】 HP閲覧数は前年同期比1.5倍に増加した。 学校説明会5回、個別相談会を2回実施。 説明会にて生徒の様子を様々な形で発信、PTAの協力による保護者インタビューを新たに実施した。 西区ふれあいまつり、馬宮地区ふれあいコンサート(3月予定)に参加(部活動) 地域懇談会(11月)ボランティア活動ほか地元7自治会へ避難所開設に係る初動支援の申出を行った。	B	学校説明会の参加者数が前年度比で減少した。 生徒募集を充実させるための組織を検討し、本校をアピールする手段を講じる。 HPは、中学生にとっての貴重な情報源であるため、今後さらに発信を充実させる。 「地域が誇れる学校」の一員として多くの生徒が地域に貢献していくよう、積極的に地域連携に関わりたい。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和5年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への集中度は引き続き高い状況が続いているが、様々な生徒それぞれにあった個別最適学の実現に向けて学習環境の整備を進めていただきたい。 ・授業への集中度とわかりやすさの数値に差があることについてはその理由を分析するとよい。 ・授業以外で全く勉強しない生徒が多いことが気になる。生徒が主体的に学びを深めたいという、意欲を引き出すような工夫を学校には進めてもらいたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「夢や希望がない」という意識は高校生に限らず広がっている。生徒の意欲をどのように引き出していか、課題となっている。 ・企業での採用に当たっては、どのような目標を持っているか、いつまでに実現させたいかなど、自分の考えをプレゼンテーションでできるかどうかを見ている。高校生にはぜひ目標をもってほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の良いところを認めながら、個別に問題解決を図ってもらいたい。服装に関しては、「自らの身を守るため」という観点から、生徒自身がルールを守る判断ができるようになることが望まれる。 ・家庭においても、日ごろからちょっとした機会を捉えて、コミュニケーションを行うことで、自らの生活について生徒自身が気づく、考える場面を作っていくことが大切。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実が、学校への満足度をさらに引き上げることに繋がると思う。 ・部活動については、国の動向などから学校の枠を越えた団体、活動などが認められる方向性を考える、部活動加入率の上昇で評価の達成状況を見るのではなく、加入している生徒がどれだけ充実しているのか、または、退部してしまう生徒が少ないのか、などの指標でみることもできるのではないかと。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生の姿勢、指導する先生方の率先した取組、それに促して活動を始めた生徒達と、段々と顔が見えてきて、少しずつではあるが、連携が出来ているのではないかと。地域から信頼される学校に向かっていると思う。 ・PTAとしても、地域との協働によって、地域のことを知る事ができた。学校と地域とが、密接な関係を少しずつ築いていくことができればよい。 	